

厚田区地域協議会 第9期総括及び引継ぎ事項（案）

【第9期における協議】

第9期の厚田区地域協議会（以下協議会）では、厚田区が目指す将来像「近説遠来」の具現化に向け、第8期の引継ぎ事項を念頭に、現在の地域課題を把握し自ら検討すべきテーマとして、「移住定住」、「情報発信」、「子ども・教育」及び「支え合いのまちづくり」を選び、協議を重ねました。

「移住定住」及び「情報発信」では、人口を増やす取り組みをするのではなく、まずは観光を含めた情報を中心とした発信を行うことにより「厚田ファン」を増やす、関係人口の創出を図ることから始め、空き家の活用を視野に入れながら将来的な移住定住へとつなげていくことを確認しました。

「子ども・教育」では、子どもは地域の宝であり、子どもが「郷土愛」、「厚田愛」を育み、たくさんの思い出を作ることができる地域になることの重要性をあらためて認識しました。

ここまでの協議の中では、「関わる」、「集まる」、「支え合い」、「助け合い」という共通するキーワードが出ていました。人が集まり関わることで人と人との交流が生まれ、新たな信頼関係も生まれ、助け合いや支え合いにつながるとするのが委員共通の意見であり、その後の協議については、子どもから高齢者までが楽しく暮らせるような地域を目指し、「関わる」・「支え合い」をテーマに、支え合いのまちづくりについて協議を進めることにしました。

「支え合いのまちづくり」では、課題を一つ一つ整理していくことで、さらに住みよい地域になっていくことを確認しました。また、住民同士がともに支える地域づくりに向けて、検討会に情報提供し、その検討経緯を見守ることとしました。

【第9期の取り組み】

上記の協議以外の取り組みとしては、住民自治を推進するため、地域住民

とともに、あるいは、地域の代表として各種委員会に参画しました。

審議会としての活動では、市からの諮問に対する答申を行ったほか、過疎地域持続的発展市町村計画の達成状況に対する評価を行いました。また、地域振興団体から提案のあった地域づくり基金の活用案を承認しました。

地域おこし協力隊については、地域住民と協議会委員で構成する「地域おこし協力隊活用検討委員会」を設置し、地域の魅力向上及び活性化に向け、どのような人材を望むか、何をしてもらおうかについて話し合った上で、地域の特産加工品の伝承を目指し、第9期の任期中に1名を採用しました。

集落支援員については、地域住民と協議会委員で構成する「集落支援員制度検討委員会」を設置し、集落支援員の活動目標や活動の方向性を検討しました。第9期の任期中に制度導入後初となる1名を採用し、地域課題の把握と解決に向けた活動を始めました。

また、委員の地域活性化に関する知見を広げるため、まちづくりセミナー及び先進地視察を行い、まちづくりの事例を学びました。

【第10期への引継ぎ】

第9期でテーマとした「関わる」・「支え合い」を基にしながら、「近説遠来」の具現化に向け、さらに議論を深めていくことを望みます。

1次産業の担い手不足、人口減少への対応策やさらなる観光資源の掘り起こし、地域おこし協力隊の活用方法など、地域振興に関する協議を行ってほしいと思います。

さらに、地域課題の把握及び解決という集落支援員の活動支援を行うとともに、住民同士がともに支える地域づくりに向けて具体的な実施準備に取り掛かることも検討してほしいと思います。

また、地域自治区が令和8年3月末をもって廃止予定であることから、次期委員におかれては、厚田における今後の地域のあり方について、将来にわたって持続可能な形となるよう、地域の代表として、熱心かつ真摯な議論を行ってほしいと思います。

以上、「共助のまち・厚田」を合言葉に、次期のさらなる飛躍を期待し、第10期への引継ぎ事項といたします。